

2010年4月28日

東海事業所安全評議会の開催について（3月3日）

東海事業所は1980年1月に東海村で操業を開始して以来、安全を第一に地元の皆様との共生を事業運営の柱として活動して参りましたが、設立30年を迎えたこの機に社外の有識者の方をメンバーとする安全評議会を設置致しました。

これは、社外有識者の方からのご意見を通じて当事業所の活動が外部からどのように見えているかを知ることにより、地元の方々の更なる安心へと繋げて行くことを念頭においているものです。

第1回の東海事業所安全評議会は、以下のとおり、3月3日に開催致しましたので、ここに、その概要をご報告致します。

1. 日時

2010年3月3日（水） 10：00～16：45

2. 出席者

社外評議員（五十音順）

- 独立行政法人日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター
センター長 金 盛 正 至 氏
- 東海村立東海南中学校 校長 川 崎 松 男 氏
- 財団法人電力中央研究所社会経済研究所地域政策領域リーダー
上席研究員 土 屋 智 子 氏
- 茨城大学名誉教授 工学博士 寺 門 龍 一 氏

当事業所説明者 所長 長谷川、副所長 田尻 他

3. 実施内容

- 東海事業所概要説明
- 社外評議員工場視察
視察場所：BWR燃料加工工場、燃料部材工場、廃棄物倉庫
- 事業活動等のご説明
 - ・東海事業所安全管理体制
 - ・09年操業状況と10年度以降の操業見通し
 - ・09年安全活動実績
- 社外評議員との意見交換

4. 社外評議員からの主なご意見

○原子燃料工業の製品がどのようなものなのか、パンフレットや今回の説明資料では明快にはわかりにくい。更に、色々な事業活動を行っているがウランしか扱っていないことを明確に説明した方がいい。

また、東海村のメイン通りから、原子燃料工業が、どこにあるのかわかりにくい。

全般的に、説明や表示など更に工夫した方が良い。

○なぜ製造工程のすぐ近くで安全に見学できるのか、もう少しわかりやすく説明した方が良い。

○燃料工場では、廃棄物は主として製造工程のどのような過程で生じるのか、わかりやすく説明した方が良い。

○今後、操業が増えることに対し、従業員の確保はどのように考えているのか。
(このご質問に対しては、操業量に比例して従業員を増やすことはないが、暫く中止していた採用活動を再開していることをご説明しております。)

○安全文化の醸成とは、例えば、従業員が自然に明るく挨拶する、というような風土・仕組みを作り上げていくことである。東海事業所の従業員はきちんと挨拶してくれているが、引き続き更に安全文化の向上に努力されることを期待する。

○ 情報公開は一方的に行うのではなく、地域の方が理解できるように心掛けることが必要。地域の方にも関心を持ってもらえるような見学のやり方、小中学生が参画できるような仕組み、普通の人が普通に働いている、という印象が持てる情報発信を工夫した方が良い。

5. 東海事業所の今後の対応

社外評議員の方々から頂いたご意見を参考にさせて頂きながら、出来ることから順次、今後の活動に反映致します。また、この安全評議会は、引き続き1年に1回程度の頻度で、引き続き開催致します。